# 公益社団法人 日本美術教育連合 令和4年(2022)度 第12回 定時総会

Zoom システムを用いた電子的方法による総会

令和4(2022)年5月15日(日)

13:00-13:50

総会記念シンポジウム2022

14:00開始

# 令和 4 (2022) 年度 第12回定時総会

# 次 第

- 開会の辞
- 理事長挨拶
- 総会成立確認
- ・議長及び議事録署名人選出
- 議長就任
- ・議 案 第1号議案 第7期役員選出の件
  - ①役員選出選挙結果報告
  - ②理事選出
  - ③監事選出

[総会休憩・第7期理事会臨時理事会の開催]

- ④代表理事選出報告
- ⑤運営委員選出報告

#### 第2号議案 令和3 (2021) 年度事業報告の件

- ①第6期活動方針報告
- ②理事会等事業運営報告
- ③公益目的事業1 研究促進事業報告
- ④公益目的事業2 国際事業報告
- ⑤公益目的事業3 啓発·普及事業報告
- ⑥美術教育連携交流担当報告
- 第3号議案 令和3 (2021) 年度決算及び監査報告の件
- ①貸借対照表
- ②正味財産増減計算書
- ③財務諸表に対する注記
- ④附属証明書
- ⑤財産目録
- ⑥貸借対照表内訳表
- ⑦正味財産増減計算書内訳表
- ⑧監査報告
- ・報告事項1 令和4(2022)年度度事業計画の件
  - ①第7期活動方針
  - ②理事会等事業運営計画
- ・報告事項2 令和4 (2022) 年度収支予算案の件
  - ①予算書
- 議長解任
- ・閉会の辞
- 事務連絡

「役員選出選挙結果報告」(山田担当)

第1号議案 資料

①役員選出選挙結果報告

第7期令和4·5(2022·2023)年度選挙管理委員会委員長山田一美

「公益社団法人日本美術教育連合定款第 25 条」に定める役員の任期満了にともなう新役員選挙は、公益社団法人日本美術教育連合ニュース、No.163 (2021 年 9 月) にて予告された。理事会により役員選出選挙管理委員会委員長に山田一美が選出され、令和 3(2021)年 11 月 14 日現在の有権者に対して、被選挙人名簿に 15 名以内の印をつける投票用紙を同年 12 月 3 日付で発送し、郵送による投票を同年 12 月 31 日(当日消印有効)締切として実施した。

開票作業は、令和 4(2022) 年 1 月 8 日に、東京学芸大学美術棟 3F 造形実習室にて行われ、選挙管理委員会の山田一美(委員長)、西村徳行(理事)、北澤俊之(事務局長)が次のような手順で実施し、大坪圭輔(理事長)が立ち会った。

各投票用封筒の消印を確認後開封し、委員長が読み上げる被選挙人名簿の番号を 2 名が記録し、2 名の記録の照合を行い、投票用紙及び集計表、無効投票を封印し、山田委員長が管理した。令和 4(2022)年 1 月 23 日、オンライン形式で開催された第 7 回理事会において集計封筒を開封し、「公益社団法人日本美術教育連合定款細則 2」に従い、得票数上位 5 名を報告し、理事会は第 7 期理事候補者を承認した。その後、理事候補者の中から 1 名の辞退者があり、令和 4 (2022)年 2 月 19 日の臨時理事会にて理事候補次点者をオンライン形式で報告し承認された。詳細は次の通りである。

有権者数 229 名, 有効投票用紙数 90, 無効投票用紙数 2, 有効投票総数 950 票。 理事候補者 西村 德行 48 票, 北澤 俊之 42 票, 大坪 圭輔 40 票, 奥村 高明 39 票, 三澤 一 実 37 票, 理事候補次点者: 結城 孝雄 35 票。

上記の結果,理事候補者 5名 (西村 徳行,北澤 俊之,大坪 圭輔,三澤 一実,結城 孝雄) は,令和 4(2022)年 5月 15日(日)開催予定の令和 4(2022)年度第 12回定時総会に諮られる。

以上

# 第1号議案 第7期役員選出の件 ②理事選出

#### 理事候補者

大 坪 圭 輔 (重任)

任期 令和4年5月16日から、令和6年度第14回定時総会まで

北澤俊之(新任)

任期 令和4年5月16日から、令和6年度第14回定時総会まで

西 村 徳 行 (重任)

任期 令和4年5月16日から、令和6年度第14回定時総会まで

三澤一実(新任)

任期 令和4年5月16日から、令和6年度第14回定時総会まで

結 城 孝 雄 (重任)

任期 令和4年5月16日から、令和6年度第14回定時総会まで

# 第1号議案 第7期役員選出の件 ③監事選出

## 監事候補者

榎 原 弘 二 郎 (重任) 任期 令和4年5月16日から、令和6年度第14回定時総会まで

宮 坂 元 裕(重任) 任期 令和4年5月16日から、令和6年度第14回定時総会まで

# 第2号議案 令和3(2020)年度事業報告の件 ① 第6期活動方針報告

定款第3条に定める本法人の目的達成を目途として、第6期においては下記の事項を活動の基本方針とした。第6期にあたる令和2(2020)年度及び令和3(2021)年度は、新型コロナウイルス感染予防を第一に、公益目的事業をはじめ多くの事業や会議をオンラインによる開催とせざるを得なかったが、計画した事業のほとんどを実施することができた。今後は、この間に培ったオンラインによる方法を生かしつつ、対面による事業の効果等を検証し、よりよき公益目的事業の展開を追求する必要がある。

- 1.活動を円滑に行うに必要な収支の安定を目指し、税額控除対象法人と認定されるべく努力する。
  - →収支のバランスとしては安定しているが,予算規模の拡大はできていない。オンライン化を進めたことで,節約できた部分と予想外の支出もあった。
- 2. 新学習指導要領実施開始期あることなどを考慮し、実践的研究を一層奨励するとともに、時節に対応した研究など、会員及び社会にとってより有益な情報の発信を強化する。
  →令和2(2020)年度造形・美術教育フォーラムに、文部科学省初等中等教育局教科調査官小林恭代氏を招請し、「図画工作科における主体的・対話的で深い学びからの授業改善」と題する新学習指導要領による授業実践を考えるための講演会を開催した。また、令和3(2021)年度造形・美術教育フォーラムでは、同教科調査官平田朝一教科調査官に講師を招請し、「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりのために」と題する新学習指導要領による実践の方向性を示唆する講演会を開催した。
- 3.「美術教育連絡協議会」をはじめとする美術教育関係諸団体のみならず、多様な分野の 団体との情報交換、協調、協力関係を強化し、図画工作科・美術科の学びや社会におけ る美術文化の重要性を造形・美術フォーラム等の開催などを通じて発信する。 →本連合と同様に、他団体もコロナウイルス感染予防の観点から多くの事業を中止も しくはオンライン化することとなり、団体間の交流に関しては目立った活動はなかっ た。
- 4. すべての人に開かれた日本美術教育研究発表会の拡充と、『日本美術教育研究論集』による研究交流の促進に取り組む。
  - →逸早くオンラインによる事業展開に取り組み、日本美術教育研究発表会を Zoom システムによるオンラインで開催することができた。全国から容易く参加できるメリットを生かしつつ、今後の発表会の在り方を考えていく必要がある。

- 5. 造形・美術教育力養成講座の拡充に取り組むと共に,教育講演会等の一層の充実を図り, その成果を発信できるようにする。
  - →DX が社会に浸透し、学校でも GIGA スクールが現実化する中で、これまでの美術教育観を発展させる内容で講師を招聘し、参加者にとって興味深い養成講座をオンラインで開催した。また、総会記念講演会や造形・美術教育フォーラムもオンラインでの開催によって、多数の参加となった。
- 6. In SEAにおける日本の代表としての歴史を踏まえ、海外美術教育関係者及び団体との関係を強化し、海外からの研究発表者についても奨励する。
  - →コロナ禍によって、海外との交流が難しい状況にあるが、InSEA 関係の出版物にかんする情報をニュースで提示した。

# 令和3(2021)年度理事会等事業運営報告

[令和3 (2021)	
4月 9日(金)	□会計監査 令和2(2020)年度後期分 書類審査による
4月11日(日)	□令和3 (2021) 年度第1回理事会・運営委員会
	Zoomシステムを用いたオンライン方式による
	・令和3(2021)年度第11回定時総会準備 ・会計監査報告
	・云町監貨報音・総会議案の確定
	<ul><li>総会運営</li></ul>
	・総会記念講演会企画
4月12日 (月)	□連合ニュースN o. 1 6 1 発行
	<ul><li>・令和3(2021)年度第11回定時総会招集通知</li></ul>
	・造形・美術教育フォーラム報告など
[総会議案公開期間( 5月16日(日)	2 適間以上)」 □第 2 回理事会・運営員会
3Л10н (н)	□ R 2 回程事芸・屋舎貝云 Z o o mシステムを用いたオンライン方式による
	<ul> <li>総会運営確認</li> </ul>
	・記念講演会運営確認
	・連合ニュースNo.162企画
	□令和3(2021)年度第11回定時総会
	Zoomシステムを用いたオンライン方式による 第1日業第、全転の(2020) 佐藤東米却はみび沈第
	<ul><li>・第1号議案:令和2(2020)年度事業報告及び決算</li><li>・第2号議案:令和3(2021)年度計画及び予算</li></ul>
	□公3:公益社団法人化10周年記念講演会
	Zoomシステムを用いたオンライン方式による
	・日本美術教育連合の公益社団法人化の意義とこれから
	日本美術教育連合役員
6月 6日 (日)	□第3回理事会・運営委員会
	Z o o mシステムを用いたオンライン方式による ・第 6 期下期理事会・運営委員会構成
	・第5 5 回日本美術教育研究発表会 2 0 2 1 計画
	・各局及び担当事業計画
6月	□連合ニュースN o. 1 6 2 発行
	• 総会報告
	・第55回日本美術教育研究発表会2021告知及び発表者募集
6 H 1 9 H (4)	・「造形・美術教育力養成講座〈第6期〉」の企画広報及び参加者募集 □臨時理事会・運営委員会
6月12日(土)	口端时理事去・連呂安貝云 Zoomシステムを用いたオンライン方式による
	・論文査読に関する内閣府担当官からの調査報告要請について
8月29日(日)	□第4回理事会・運営委員会
	Zoomシステムを用いたオンライン方式による
	・「第54回日本美術教育研究発表会2020」の運営準備

- ・第7期役員選挙選挙管理委員会の設置 ・連合ニュースNo. 163企画 □論集編集委員会
  - Zoomシステムを用いたオンライン方式による
  - 発表者確定
  - ・ 杳読担当者の検討
- 9月 □日本美術教育連合ニュースNo. 163発行
  - ・「第55回日本美術教育研究発表会2021」の発表者一覧等
- 10月 9日 (土) **□公3:造形・美術教育力養成講座〈第7期〉①**

Zoomシステムを用いたオンライン方式による

- ・子どもと美術「デジタル社会を生きる子どもたちの『つくる』力」 NPO 法人 CANVAS 赤松 裕子 氏 窪村 永里子 氏
- 1 0 月 1 7 日 (日) □公1:第55回日本美術教育研究発表会2021

Zoomシステムを用いたオンライン方式による

- ・発表24件,参加者64名
- □臨時理事会・運営委員会

Zoomシステムを用いたオンライン方式による

- ・第7期役員選挙 選挙管理委員会委員長の委嘱について
- 11月14日(日) □第5回理事会・運営委員会

Zoomシステムを用いたオンライン方式による

- ·第54回日本美術教育研究発表会2020報告
- ・造形・美術教育フォーラム2021企画
- · 第7期役員選挙準備
- □論集編集委員会

Zoomシステムを用いたオンライン方式による

- 論文審查準備
- 11月28日(日) □臨時理事会・運営委員会

Zoomシステムを用いたオンライン方式による

- ・公益法人役員における女性役員の参画促進について
- 12月 □第7期役員選挙
  - 投票用紙郵送による互選選挙
  - · 投票用紙発送 12月3日付
  - ・郵送投票締切 12月31日
- 12月19日(日) □第6回理事会・運営委員会

Zoomシステムを用いたオンライン方式による

- ・造形・美術教育フォーラム運営
- · 第7期役員選挙実施状況報告
- □論集編集委員会

Zoomシステムを用いたオンライン方式による

- 論文査読
- □公3:造形・美術教育フォーラム2021

Zoomシステムを用いたオンライン方式による

- ・これからの美術教育を考える
  - 答申(令和3年1月26日)からみた美術教育-文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 平田朝一氏

[令和4(2022)年]

1月12日(水) □臨時理事会

Zoomシステムを用いたオンライン方式による ・令和3(2021)年12月19日付、山口喜雄理事の声明文について □臨時理事会 1月20日(木) Zoomシステムを用いたオンライン方式による ・令和3(2021)年12月19日付,山口喜雄理事の声明文に関する監事 諮問に対する答申について □公3:造形・美術教育力養成講座〈第7期〉② 1月22日(土) Zoomシステムを用いたオンライン方式による ・社会と美術「今日のデジタルテクノロジーを活用した造形表現」 武蔵野美術大学デザイン情報学科専任講師 大石 啓明 氏 1月23日(日) □臨時理事会 Zoomシステムを用いたオンライン方式による ・令和3(2021)年12月19日付、山口喜雄理事の声明文について □第7回理事会・運営委員会 Zoomシステムを用いたオンライン方式による ・令和3(2021)年12月19日付、山口喜雄理事の声明文について · 第7期役員選挙結果報告 ・令和4(2022)年度第12回定時総会の開催確認 ・造形・美術教育力養成講座実施状況報告 ・造形・美術教育フォーラム実施業況報告 ・連合ニュースNo. 164企画 □論集編集委員会 Zoomシステムを用いたオンライン方式による • 論文再杳読 2月19日(土) □臨時理事会・運営委員会 Zoomシステムを用いたオンライン方式による ・第7期理事候補者の選出について □第8回理事会・運営委員会 3月 6日(日) Zoomシステムを用いたオンライン方式による ・戒告処分について · 令和4 (2022) 年度第12回定時総会準備 · 令和3 (2021) 年度事業報告 · 令和3 (2021) 年会計報告 ・令和4(2022)年度第12回定時総会記念講演の企画 ・連合ニュースNo. 164準備 3月12日(十) □公3: 造形・美術教育力養成講座〈第7期〉③ Zoomシステムを用いたオンライン方式による ・障害者と美術「テクノロジーで開く芸術体験 ~体拡張が可能にする芸術接点の未来型~」 (株) オリィ研究所 鈴木 メイザ 氏 3月21日(月) □第7期理事会準備会 渋谷貸会議室 3月31日(木) □公1:日本美術教育研究論集2022No.55刊行 □令和4(2022)年度第1回理事会·運営委員会(第6期役員担当) 4月10日(日) Zoomシステムを用いたオンライン方式による ・令和4(2022)年度第12回定時総会議案の確定 ・令和4(2022)年度第12回定時総会記念シンポジウム準備 4月11日(月) □日本美術教育連合ニュースNo. 164発行

- ·第55回日本美術教育研究発表会2021報告
- ・造形・美術教育フォーラム2021報告
- ・造形・美術教育力養成講座〈第7期〉報告
- · 令和4(2022)年度第12回定時総会招集通知
- ・令和4(2022)年度第12回定時総会記念シンポジウムの予告
- 4月23日(土) □会計監査 令和3(2021)年度分(第6期監事担当)
  - □令和4(2022)年度臨時理事会(第6期役員担当)
    - ・令和4(2022)年度第12回定時総会第3号議案の確定

#### 「総会議案公開期間(2週間以上)]

5月15日(日)

- □第2回理事会・運営委員会(第6期役員担当) Zoomシステムを用いたオンライン方式による
- □令和4(2022)年度第12回定時総会(第6期役員担当)
  - Zoomシステムを用いたオンライン方式による
  - ・第1号議案:第7期役員選出
  - ・第2号議案:令和3(2021)年度事業報告
  - ・第3号議案:令和3(2021)年度決算及び監査報告
- □令和4(2022)年度臨時理事会(第7期理事及び監事選出者)
  - Zoomシステムを用いたオンライン方式による
  - 第7期理事長選出
  - ・第7期運営委員の選出
- □公2・公3: 令和4 (2022) 年度第12回定時総会記念シンポジウム

(第6期役員担当)

Zoomシステムを用いたオンライン方式による

・美術教育から国際交流を考える 兵庫教育大学名誉教授、兵庫教育大学先端教職課程カリキュラム開発セン ター特命教授 福本 謹一 氏,ほか日本美術教育連合役員

# 第2号議案 令和3(2021)年度事業報告の件 ③公益目的事業1 研究促進事業報告(案)

■令和3年度活動計画概要(令和3(2021)年6月6日の第8回理事会、運営役員会にて、承認) 研究局は、定款による「美術教育に関する研究発表会の開催並びに研究論集の刊行」を実施した。そのために、研究発表会開催と研究会誌発刊が支障なく実施できる業務分担の構築と運営を行った。

第 55 回日本美術教育研究発表会 2021 を令和 3 年 10 月 17 日, オンラインにて開催し, 『日本美術教育研究論集 2022 No.55』を令和 4 年 3 月 31 日刊行し, 会員に頒布した。

■令和 3 (2021)年度活動報告

第55回日本美術教育研究発表会2021開催

日時:2021.10.17(日)9:00-17:00

場所:zoom 上オンライン開催 形式:リアルタイム配信 6会場設定

発表件数 24件 参加者 64名

後援:文化庁

『日本美術教育研究論集 No.55 \_ 2022』刊行

2022年3月31日刊行

掲載論文1群4件, II群4件, III群6件 計14件

#### ■実施概要

コロナ状況下で2回目の研究発表会実施に向けて、昨年度の反省をもとにオンラインでの開催準備を行う。Web 上での申し込み体制は確立されて、笠原運営委員、北川事務局運営委員、佐藤仁美局員のご尽力により支障なく実施された。また、集約された個人情報も安全に管理運用されて、関係者の情報共有が図られた。概要文の校正については、藤井運営委員と赤木研究局員が精力的に短期間で完了した。

連合ニュース 162 号(2021.7)に「第 55 回日本美術教育研究発表会 2021 一次案内」,および 163 号 (2021.9)に「第 55 号日本美術教育研究論集 2022 【投稿および掲載要項】」,「入会申込書(学生・一般)」,「研究発表申込方法」を最終案内と研究発表時間割を掲載した。 小林運営員,林運営委員,山田運営委員,藤井運営委員のご尽力により発表者・運営者・司会者のリハーサルを実施,課題を共有することができた。当日の発表会も運営役員各位のご対応,参加者の皆様のご協力により支障なく運営された。今年度も北澤事務局長のご手配で文化庁後援が実現した。なお、結果的には、実現できなかったが海外の研究者にも発表を呼びかけた、本年度も継続して取り組みたい。

立川編集委員長の元、論集誌編集委員会が開催され、慎重な査読審議によって、I 群(理 論・実践研究)4件、II 群(実践研究報告)4件、III 群(研究ノート)6件、計 14件が査読を通過し、「第 55 号日本美術教育研究論集 2022」を 3 月 31 日に刊行、会員に頒布された。

「投稿論文ルーブリック」および「投稿規定」の運用が実施された。投稿論文に関する区分け「研究論文」「実践研究」「研究ノート」の位置づけ、および内容の掲載基準と規定を明確にして、各論文を構成する要件を明確にしたルーブリックが立川研究誌編集委員長から投稿者に示された。「投稿規定」・「投稿論文ルーブリック」は、 HP,連合ニュースで公表された。これにより、投稿者の自己確認,査読者の審査基準の明確化により、透明性のある査読体制が構成された。

本法人での「著作物規定」 - 本法人で取り扱う投稿論文等の著作物に関する規定を継続して検討する。

第2号議案令和3 (2021) 年度事業報告の件 ④令和3 (2021) 年度国際局活動報告 (案)

#### ■令和3(2021)年度活動報告

- 1. 昨年度(令和2年度・2020年度)は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、多くの InSEA 関連行事が延期となったが、本年度はそれらの行事がオンラインで実施された。スペインのバエサ (Baeza) で開催予定であったヨーロッパ地区会議は7月6~9日に、ペルーのクスコ (Cusco) で開催予定であったラテンアメリカ地区会議は11月24~27日にオンラインで開催された。また本年度は6つの地域で、それぞれ3つのウェビナーが行われ、YouTube でも配信された。国際局では連合ニュースを通して、これら InSEA 関連行事を会員に紹介し、参加を呼びかけた。
- 2. 連合ニュース163号(2021年9月発行)では、「InSEA ホームページを旅する」と題する InSEA ホームページ (https://www.insea.org) の紹介を行った。佐藤真帆国際局局員 (InSEA アジア地区評議委員) のご尽力もあり、現在はトップページをはじめ、ほぼすべてを日本語で閲覧することができる。連合ニュースでは主なコンテンツを紹介することで、会員に「InSEA ホームページへの旅」を促した。
- 3.日本の研究論文を海外の美術教育関係者に発信するためにも、ホームページは大変有効な手段となる。ホームページの運用が軌道にのってきたことから、英訳への取り組みなど、今後も継続して検討する。

#### 令和4(2022)年度国際局活動計画(案)

#### ■令和4(2022)年度活動計画

- 1. 昨年に引き続き、日本の美術教育を発信する「国際交流プラットフォーム(仮)」の作成を提案する。国内の美術教育関連の研究会も、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、その多くがオンラインで実施されている。当初はこれまでの代替案として実施されていたものだが、ここにきて地域を越えた交流が実現し、研究会も新しい広がりやつながりをみせている。本連合においても、関係団体と連絡をとりながら、発信できる情報の募集や日本発のウェビナーの開催等を検討する。In SE A JAPANとして、国内研究論文の海外発信や、また研究発表会などを利用した海外研究者との交流の可能性についても検討を行う。
- 2.2022年4月23日にアジア地域ウェビナー「持続可能性:アジアのアートによるコミュニティの活性化」、4月30日にヨーロッパ地区ウェビナー「マージンに基づいて行動する:ソーシャルスカルプチャーとしての芸術」、6月21~24日にInSEAワールドフォーラム2022「マッピング(芸術による教育)」(フォーラムホスト:杭州師範大学、杭州、中国)等が、オンラインで開催される。ウェビナーにはInSEA会員が無料で参加できることから、これら情報提供を、ニュースやホームページを通じて行う。
- 3. 第56回日本美術教育研究発表会 第4回国際ポスター研究発表部門の実施について、研究局と連携しながらホームページなどを通じてInSEA 会員に広報する。
- 4. In SEA IAPANの窓口及び海外向け広報を目的としたホームページの作成を検討する。

#### 第2号議案

## ⑤公益目的事業 3 啓発·普及事業報告

#### 日本美術教育連合「造形・美術教育力養成講座〈第6期〉について (報告)

事業局 三澤一実

「造形・美術教育力養成講座」は 2018 年度から連続講座を開催してきた。連続講座では美術や美術教育を幅広くとらえ、社会における美術教育の理解を広げその拡充を図るとともに、子どもと造形表現に関する理解を深めたり、教育としての美術の可能性を考えたりするなど、講義と演習を通して教育実践力等を高める造形・美術教育力養成講座を実施してきた。2021 年度もその趣旨を踏まえ、「越境し拡張する美術・テクノロジーとコミュニケーション」をテーマに、①子どもと美術、②社会と美術、③障害者と美術の全3回の連続講座を開催した。

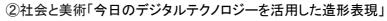
2021 年度の講座では、講師によるレクチャーや事例紹介と、簡単なワークショップを通して、テクノロジーが変えていくこれからの造形美術教育のあり方を考え、全3回の内、3分の2以上の受講者12名に修了書を出す事ができた。



#### ①子どもと美術「デジタル社会を生きる子どもたちの『つくる』カ」

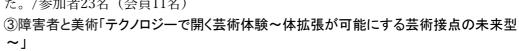
日時: 令和3年(2021)年10月9日(土)

講師:NPO法人CANVAS 赤松 裕子 氏 窪村 永里子 氏 前半はこれまで CANVAS が取り組んできた STEAM ワークショップや体験型ハンズオン展示の企画づくりで大切にしていることを、豊富な事例紹介をもとに話していただいた。後半は、デジタルコンテンツを用いたミニワークショップ「スマホ顕微鏡でコラージュアートづくり」を体験した上で、STEAM\*教育の「A (アート)ってなんだろう?」についてグループディスカッションをした。/参加者29名(会員9名)



日時: 令和3年(2022)年1月22日(土)

講師:武蔵野美術大学デザイン情報学科専任講師 大石 啓明 氏 コンピュータは、ネットワークに接続されることにより既存のメディアの枠を取り除き、その応用の幅を一層広げている。講演では、デジタルテクノロジーを活用した造形表現について、作品や実践の紹介とワークショップを交え、今日までの歴史と今後の展望について話しを伺った。また参加者が指示を出し、講師がその場でプログラムを入力して動かすデジタル表現の簡単なワークショップを行った。/参加者23名(会員11名)



日時:令和3年(2022)年3月12日(土)

講師:(株)オリィ研究所 鈴木 メイザ 氏

前半は、OriHime開発元であるオリィ研究所の鈴木メイザ氏から多様な事例紹介と、OriHimeによる障害者の社会進出の事例などを伺い、後半は、参加者一人一人がOriHimeロボットを実際に遠隔操作するワークショップを実施した。

OriHimeの操作体験を通してzoomなどとのコミュニッケーションの違いを体験し、それをふまえて、「OriHime」というツールを生かしてどのようなコミュニケーションが可能なのかを参加者全員で考えた。/参加者17名(会員8名)





## 第2号議案 ⑥ 令和3(2021)年度美術教育連携交流担当活動報告(案)

#### ■令和3(2021)年度活動報告

- 1. 令和3(2021)年5月16日(日)、ZOOMオンラインでの《公益法人認定10周年記念シンポジウム2021》は演題「日本美術教育連合の公益社団法人化の意義とこれから」と題し、本連合役員をシンポジストとして第1部3氏、第2部5氏が登壇した。その構成は、熟年・若手のバランスを考慮した男女各4氏で男女共同参画社会に適合する人選であり、終了後に参加者から賛辞が寄せられた。ゴールデンウイーク後の日曜に東京・神奈川等近郊を中心に大分・兵庫・滋賀・新潟などから54名が参加した。内訳は大学・短大教員約半数の47%で、小・中・高15%、行政・美術館・出版社11%、院生他27%であった。ZOOMオンラインであったが、会員・非会員各1名からシンポジウム内容を補完する意見や質問があり、意義がより深まった。その成果であるシンポジウムの全発言や提示されたスライドを基に『日本美術教育研究論集第55号』143~174頁にカラー印刷で掲載、理事長挨拶や総括討論、開・閉会の辞、および登壇者全員の顔写真・プロフィールを配したので歴史的かつ学術的な意義があるとの評価を得た。
- 2. 令和3 (2021)年12月19日(日)、ZOOMオンライン開催《造形・美術教育フォーラム2021》の演題は「これからの美術教育を考える一答申(令和3年1月26日)からみた美術教育一」で、文部科学省初等中等教育局教育課程課の平田朝一教科調査官に講師を依頼した。「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりのために」に「思い」と「主題」を大切にすることが提言され、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」や「ICTを活用する学習活動と感覚で直接感じ取らせる学習活動」など「Society5.0 時代」における学校教育のなかで留意すべき重要で多様な視点に参加者は耳を傾けた。クリスマス直前の日曜午後であったが、東京・神奈川など関東甲信越、北海道・秋田・宮城、愛知・岐阜・石川、大阪・兵庫・京都など関西圏、島根・広島・岡山・徳島、福岡・熊本・大分・沖縄など33都道府県から99名が参加した。内訳は大学・短大25%、幼・小・中・高・特支45%、行政・美術館・出版社18%、院生・一般12%で前回と比して変化した。日曜開催のため公的施設が使えず、コロナ対策を施し新橋駅近くの貸会議室から発信した。充実した講演で質疑応答の時間を設定できなかったが、最後に参加者が顔を出して拍手が起こった。講師執筆の講演内容(大要)、一部スライド・資料、写真を付して令和4(2022)年4月発行の『(公社)日本美術教育連合ニュース164号』4~7頁に記事を掲載した。

#### ■令和4(2022)年度活動計画(案)

- 1. 令和2(2022)年5月15日の《2022年定時総会記念シンポジウム》は、「美術教育から国際交流を考える」と題して基調講演「国際交流を越えて」福本謹一氏、講演「InSEA(国際美術教育学会)紹介:アジア地域の活動を中心に」佐藤真帆氏、事例紹介2氏、ゲストスピーカー1氏に依頼して、国際局と美術教育連携交流担当との合同で準備を進めている。
- 2.《造形・美術教育フォーラム2022》に関しては、開催日や講演内容等を検討中である。

# 決算報告書

第12期

自 平成 3年 4月 1日 至 令和 4年 3月 31日

公益社団法人日本美術教育連合

東京都文京区本郷二丁目30番14号 文京ビル206号

# <目 次>

(1)	貸借対照表・・・・・・・	•	•	•	•	•	• P.1
(2)	正味財産増減計算書・・・	•	•	•	•	•	• P.2
(3)	財務諸表に対する注記・・	•	•	•	•	•	• P.3
	附属明細書・・・・・・・						
(5)	財産目録・・・・・・・・	•	•	•	•	•	• P.5
(6)	貸借対照表内訳表・・・・	•	•	•	•	•	• P.6
(7)	正味財産増減計算書内訳表	•	•	•	•	•	• P.7

# (1) 貸借対照表

# 令和4年3月31日現在

科 目		 前 年 度	(単位:円 <i>)</i> 増 減
1 資産の部	1 1 0	111 /	- H
1. 流動資産			
現金預金	272,743	847,980	△ 575,237
流動資産合計	272,743	847,980	△ 575,237
2. 固定資産		2,222	
(1) 基本財産			
定期預金	2,600,000	2,600,000	0
図 書	2,500,000	2,500,000	0
基本財産合計	5,100,000	5,100,000	0
(2)特定資産	· · · ·	· · · ·	
新事業準備預金	33,820	33,769	51
特定資産合計	33,820	33,769	51
(3) その他固定資産			
敷金	60,000	60,000	0
その他固定資産合計	60,000	60,000	0
固定資産合計	5,193,820	5,193,769	51
資産合計	5,466,563	6,041,749	△ 575,186
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,800,010	1,991,189	△ 191,179
前受金	252,000	186,000	66,000
流動負債合計	2,052,010	2,177,189	△ 125,179
2. 固定負債			
長期借入金	350,000	350,000	0
固定負債合計	350,000	350,000	0
負債合計	2,402,010	2,527,189	△ 125,179
Ⅲ 正味財産の部			
1. 一般正味財産	3,064,553	3,514,560	△ 450,007
(うち基本財産への充当額)	(5,100,000)	(5,100,000)	(0)
(うち特定財産への充当額)	(33,820)	(33,769)	(51)
正味財産合計	3,064,553	3,514,560	△ 450,007
負債及び正味財産合計	5,466,563	6,041,749	△ 575,186

# (2) 正味財産増減計算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日

			(半四川)
科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益			
基本財産受取利息	51	417	△ 366
受取入会金			
受取入会金	30,000	36,000	△ 6,000
受取会費			
受取正会員会費	1,122,000	1,351,000	△ 229,000
受取賛助会員会費	90,000	70,000	20,000
事業収益	,	•	,
	180,000	140,000	40,000
論集掲載料	332,000	451,500	△ 119,500
造形美術養成講座	135,775	85,096	50,679
<u> </u>		62,269	△ 58,269
	4,000	02,209	
研究発表会参加	1,000		1,000
受取補助金	1	10.000	A 10 000
受取寄付金		10,000	△ 10,000
受取利息	3	2	1
雑収益		64,950	△ 64,950
経常収益計	1,894,829	2,271,234	△ 376,405
(2) 経常費用			
事業費			
講師料	80,000	135,000	△ 55,000
印刷製本費	886,420	897,159	△ 10,739
通信運搬費	336,100	192,003	144,097
会議費	14,498	35,563	△ 21,065
旅費交通費	14,032	6,732	7,300
賃借料	304,500	302,225	2,275
委託報酬	189,000	244,300	△ 55,300
維費	26,987	129,849	△ 102,862
事業費計	1,851,537	1,942,831	△ 91,294
管理費	_,,_	_,,	
会議費	10,400	9,542	858
旅費交通費	10,100	1,900	△ 1,900
通信運搬費	83,241	86,703	△ 3,462
賃借料	174.500	129,525	44,975
-	27,000	129,525	27,000
保険料	+	22.021	
消耗品費	95,040	22,031	73,009
印刷製本費	7,103	73,476	△ 66,373
委託報酬	81,000	104,700	△ 23,700
維費	15,015	12,400	2,615
管理費計	493,299	440,277	53,022
経常費用計	2,344,836	2,383,108	△ 38,272
当期経常増減額	△ 450,007	△ 111,874	△ 338,133
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
経常外収益計			0
経常外費用計	0	0	0
当期経常経常外増減額	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 450,007	△ 111,874	△ 338,133
税引前当期一般正味財産増減額	△ 450,007	△ 111,874	△ 338,133
当期一般正味財産増減額	△ 450,007	△ 111,874	△ 338,133
一般正味財産期首残高	3,514,560	3,626,434	△ 111,874
一般正味財産期末残高	3,064,553	3,514,560	△ 450,007
_			
Ⅱ 正味財産期末残高	3,064,553	3,514,560	△ 450,007

## (3) 財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

該当なし。

2. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び記

該当なし。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

該当なし。

(3) 固定資産の減価償却の方法

該当なし。

(4) 引当金の計上基準

該当なし。

(5) キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

該当なし。

(6) 消費税の会計処理

該当なし。

3. 会計方針の変更

資産及び負債科目に内部取引科目を設定する。

4. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

				(羊四・11)
科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	2,600,000	0	0	2,600,000
図書	2,500,000	0	0	2,500,000
小計	5,100,000	0	0	5,100,000
特定資産				
新事業準備預金	33,769	51	0	33,820
小計	33,769	51	0	33,820
合計	5,133,769	51	0	5,133,820

5. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

基本財産及び特定負産の財源	詩の内訳は、次	のとおりである。		(単位:円 <i>)</i>
科目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対 応する額)
基本財産				
定期預金	2,600,000		(2,600,000)	
図書	2,500,000		(2,500,000)	
小計	5,100,000		(5,100,000)	
特定資産				
新事業準備預金	33,820		(33,832)	
小計	33,820		(33,832)	
合計	5,133,820		(5,133,820)	

6. 担保に供している資産

該当なし。

7. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

該当なし。

8. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高および当期債権の当期末残高

該当なし。

9. 保証債務等の偶発債務

該当なし。

10. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし。

11. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりです。

該当なし。

12. 基金及び代替基金の増減額及びその残高は

該当なし。

13. 指定正味財産から一般正味財産への振替額

該当なし。

14. 関連当事者との取引

該当なし。

15. キャッシュ・フロー計算書の資金の範囲及び重要な非資金取引

該当なし。

16. 重要な後発事象

該当なし。

17. その他

該当なし。

# (4) 附属明細書

# 1. 基本財産及び特定資産の明細

(単位:円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
基本財産					
	定期預金	2,600,000	0	0	2,600,000
	図書	2,500,000	0	0	2,500,000
	基本財産計	5,100,000	0	0	5,100,000
特定資産					
	新事業準備預金	33,769	51	0	33,820
	特定資産計	33,769	51	0	33,820

# 2 引当金の明細

該当なし

# (5) 財産目録

## 令和4年3月31日現在

		I		(単位・円)
貸借対照	表 科 目	場所・物置等	使用目的等	金額
(流動資産)	<b>公</b> 茲 <b>公</b>			
現	金預金金	手元保管	運転資金として	8,828
	本 替貯金	ゆうちょ銀行	運転資金として	127,266
	通預金	ゆうちょ銀行	運転資金として	136,649
	金預金計			272,743
流動資産合計 (固定資産)				272,743
基本財産				
定其	期預金	三菱UFJ信託銀行 上野支店定期預金	運用益を公益目的事業及び法人会計に 使用する	2,600,000
図	書	山形文庫2,003冊	調査研究の資料として活用する	2,500,000
# 1 81 # 4 -1		筑波大学芸術学系に保管		= 100.00
基本財産合計				5,100,000
	事業準備預金	三菱UFJ信託銀行 上野支店普通預金	運用益を法人会計に積立てる。	33,820
特定財産合計				
その他固定		++	<b>ホマケラングイチ</b> /状/H±11/4ん。 まし.人	CO 000
製 その他固定資産	金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 金	文京区本郷2-30-14文京ビル	事務所賃貸借契約 敷金	60,000
固定資産合計				5,193,820
資産合計				5,466,563
(流動負債)				
未	払 金	上武印刷(株)	日本美術教育研究論集第54号 印刷製本代発送料メール便他	707,162
		上武印刷(株)	連合ニュース161 印刷製本代	59,056
		上武印刷(株)	連合ニュース161 発送料	41,303
		上武印刷(株)	連合ニュース162 印刷製本代	58,977
		上武印刷㈱	連合ニュース162 発送料	40,268
		上武印刷(株)	連合ニュース163 印刷製本代	40,873
		上武印刷(株)	連合ニュース163 発送料	41,770
		上武印刷㈱	論集第55号 印刷製本代	599,200
		上武印刷(株)	論集第55号 発送料	114,975
		上武印刷(株)	日本美術教育研究発表会2021 印刷製本代	27,500
		上毛印刷(株)	ホームページ作成費用	5,324
		手塚千尋	レターパックライト購入代	17,844
		北澤俊之	定時総会出欠はがき、レターパック代他	40,938
		西村徳行	会計士打合せその他	4,820
		未払金計		1,800,010
前	受 金			2,000,010
	_	正会員受取会費	令和4年度受取正会員会費34名	203,000
		赞助会員受取会費	令和4年度受取賛助会員会費3法人	25,000
		正会員受取会費	令和5年度受取正会員会費6名	24,000
		前受金計		252,000
流動負債合計		MANAGEM H I		2,052,010
(固定負債)				
	期借入金	宮坂元裕	運転資金借入金	350,000
固定負債合計				350,000
負債合計				2,402,010
正味財産				3,064,553

# (6) 貸借対照表内訳表

令和4年3月31日現在

		公益目的			(十四・11)
	科目	事業会計	法人会計	内部取引消去	合計
1	資産の部				
	1. 流動資産				
	現金預金		272,743		272,743
	貸付金事業部		3,228,049	△ 3,228,049	0
	流動資産合計		3,500,792	△ 3,228,049	272,743
	2. 固定資産				
	(1) 基本財産				
	定期預金		2,600,000		2,600,000
	図書		2,500,000		2,500,000
	基本財産合計		5,100,000		5,100,000
	(2) 特定資産				
	新事業準備預金		33,820		33,820
	特定資産合計		33,820		33,820
	(3) その他固定資産				
	敷金		60,000		60,000
	その他固定資産合計		60,000		60,000
	固定資産合計		5,193,820		5,193,820
	資産合計		8,694,612	△ 3,228,049	5,466,563
П	負債の部				
	1. 流動負債				
	未払金		1,800,010		1,800,010
	借入金				
	前受金		252,000		252,000
	短期借入金事業部	3,228,049		△ 3,228,049	0
	流動負債合計	3,228,049	2,052,010	△ 3,228,049	2,052,010
	2.固定負債				
	長期借入金		350,000		350,000
	固定負債合計		350,000		350,000
	負債合計	3,228,049	2,402,010	△ 3,228,049	2,402,010
Ш	正味財産の部				
	1. 一般正味財産	△ 3,228,049	6,292,602		3,064,553
	(うち基本財産への充当額)		(5,100,000)		(5,100,000)
	(うち特定財産への充当額)		(33,820)		(33,352)
	正味財産合計	△ 3,228,049	6,292,602		3,064,553
	負債及び正味財産合計		8,694,612	△ 3,228,049	5,466,563

# (7) 正味財産増減計算書内訳表

令和3年4月1日から令和4年3月31日

	公益目的事業会計						(単位:円
科目	研究促進事業	国際事業				内部取引消去	合計
   Ⅰ 一般正味財産増減の部	训允促严争来	四次尹未	台九 目及事未	וםיני			
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
① 基本財産運用益							
基本財産受取利息			26	26	25		51
② 受取入会金			20	20	23		51
受取入会金	3,000		9,000	12,000	18,000		30,000
③ 受取会費	5,000		0,000	12,000	20,000		00,000
受取正会員会費	112,200		336,600	448,800	673,200		1,122,000
受取賛助会員会費	9,000		27,000	36,000	54,000		90,000
<ul><li>④ 事業収益</li></ul>	3,000		27,000	00,000	01,000		30,000
論集広告料	180,000			180,000			180,000
論集掲載料	332,000			332,000			332,000
造形美術養成講座	332,000		135,775	135,775			135,775
論集購読料	4,000		200,110	4,000			4,000
研究発表会	1,000			1,000			1,000
⑤ 受取寄付金	_,			_,,,,,			_,
受取寄付金							
⑥ 雑収益							
受取利息			2	2	1		3
維収益					_		
経常収益計	641,200		508,403	1,149,603	745,226		1,894,829
(2) 経常費用					-		
①事業費							
講師料			80,000	80,000			80,000
印刷製本費	646,264		240,156	886,420			886,420
通信運搬費	210,939		125,161	336,100			336,100
会議費			14,498	14,498			14,498
旅費交通費			14,032	14,032			14,032
賃借料	174,000		130,500	304,500			304,500
委託報酬	108,000		81,000	189,000			189,000
雑費	7,877	3,938	15,172	26,987			26,987
事業費計	1,147,080	3,938	700,519	1,851,537			1,851,537
②管理費							
会議費					10,400		10,400
通信運搬費					83,241		83,241
賃借料					174,500		174,500
消耗品費					95,040		95,040
印刷製本費					7,103		7,103
保険料					27,000		27,000
委託報酬					81,000		81,000
雑 費					15,015		15,015
管理費計					493,299		493,299
経常費用計	1,147,080	3,938	700,519	1,851,537	493,299		2,344,836
当期経常増減額	△ 505,880	△ 3,938	△ 192,116	△ 701,934	251,927		△ 450,007

# (7) 正味財産増減計算書内訳表

平成2年4月1日から令和3年3月31日

							(半四・11)
科目		公益目的事業会計				内部取引消去	合計
1 <del>11</del> = 1	研究促進事業	国際事業	啓発・普及事業	小計	法人会計	内即极引用云	
2. 経常外増減の部							
当期経常外増減額							
他会計振替前当期一般 正味財産増減額	△ 505,880	△ 3,938	△ 192,116	△ 701,934	251,927		△ 450,007
税引前当期一般正味財産 増減額	△ 505,880	△ 3,938	△ 192,116	△ 701,934	251,927		△ 450,007
当期一般正味財産増減額	△ 505,880	△ 3,938	△ 192,116	△ 701,934	251,927		△ 450,007
一般正味財産期首残高	-8,588	△ 98,877	△ 2,418,650	△ 2,526,115	6,040,675		3,514,560
一般正味財産期末残高	△ 514,468	△ 102,815	△ 2,610,766	△ 3,228,049	6,292,602		3,064,553
II 正味財産期末残高	△ 514,468	△ 102,815	△ 2,610,766	△ 3,228,049	6,292,602		3,064,553

令和4(2022)年度第12回定時総会

# 監査報告書

令和4(2022)年4月23日

公益社団法人 日本美術教育連合 理事長 大坪 圭輔 殿

公益社団法人 日本美術教育連合

 監事
 榎原弘二郎

 監事
 宮坂 元裕

私たち監事は、令和3年度(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)における 事業報告等、財務諸表等及び理事の職務執行状況の監査を行いましたので、次のとおり報 告いたします。

#### 1. 監査の方法 及び その内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に 努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の 執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、 業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事 業報告等(事業報告及びその附属明細書)について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表等(貸借対照表、正味財産増減計算書、これらの附属明細書及び財産目録)について検討いたしました。

#### 2. 監査意見

- (1) 事業報告等(事業報告及びその附属明細書)は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 今期理事会の職務執行状況について、一部理事が理事長ほかの行為への強い批判を表明し監事はこの行為を定款違反と判断し理事会に諮問しました。理事会はそれを受けて戒告を決議しましたが、本人は受諾しませんでした。そこで、第7期理事会準備会は、本人の説得に当たり、「本人が意思表明の時期が適切ではなかったと認めるに至り、もって本問題の一定の収束とした」との報告を受けましたので、それを認めました。

今後の理事会運営においても、定款等に基づいた理事会の業務執行を強く求めます。

(3) 財務諸表等(貸借対照表、正味財産増減計算書、これらの附属明細書及び財産目録) は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上

# 報告事項1 令和4 (2022) 度事業計画の件 ①第7期活動方針

定款第3条に定める本法人の目的達成を目途として、第7期においては次の事項を活動 の基本方針とする。

- 1. 公益目的事業 1 (研究促進事業・研究局担当) すべての人に開かれた日本美術教育研究発表会の拡充と国際化に努め,『日本美術教育研究論集』による造形美術教育研究の交流促進に取り組む。
- 2. 公益目的事業 2 (国際事業・国際局担当) デジタル技術を活用したアジア地域を中心とした交流拡大に努め、造形美術教育研究 に関する国際的情報を発信する。また、他の公益目的事業においても国際化が進むよう 働きかける。
- 3. 公益目的事業 3 (啓発・普及事業・事業局担当) GIGA 構想や STEAM 教育, 国際化を念頭に,造形・美術教育力養成講座の拡充に取り組むと共に,教育講演会等の一層の充実を図り,その成果を発信できるようにする。
- 4.活動を円滑に行うに必要な収支の安定を目指し、税額控除対象法人と認定されるべく努力するとともに会員の増加を図る。
- 5. 次期学習指導要領改訂を考慮し、実践的研究を一層奨励するとともに、時節に対応した研究など、社会にとってより有益な情報の発信を強化する。
- 6.「美術教育連絡協議会」をはじめとする美術教育関係諸団体のみならず、多様な分野の 団体との情報交換、協調、協力関係を強化し、図画工作科・美術科の学びや社会におけ る美術文化の重要性を啓発、普及する。
- 7. 公益法人としての公益性を踏まえ、諸規則の整備を進めるとともに、公明公正な運営を目指す。

## 報告事項1

②令和4(2022)年度理事会等事業運営計画

「令和4 (2022)	年
	□令和4(2022)年度第1回理事会・運営委員会(第6期役員担当)
	Zoomシステムを用いたオンライン方式による
	<ul><li>・令和4(2022)年度第12回定時総会準備</li></ul>
	・総会議案審議
	• 会計監査報告
	• 総会運営
	・総会記念シンポジウム企画
4月11日(月)	□連合ニュースNo.164発行(第6期役員担当)
	<ul><li>・令和4(2022)年度第12回定時総会招集通知</li></ul>
	・総会記念シンポジウム予告
	<ul><li>第55回日本美術教育研究発表会2021報告</li></ul>
	・造形・美術教育フォーラム2022報告
	・造形・美術教育力養成講座〈第7期〉報告
	・第7期理事選出選挙結果報告など
4月23日(土)	□会計監査 令和3 (2021) 年度分(第6期監事担当)
	書類審査による
	□令和4(2022)年度臨時理事会(第6期役員担当)
「炒人業学八明期間	・令和4(2022)年度第12回定時総会第3号議案の確定
[総会議案公開期間	(2週間以上)」 □第2回理事会・運営員会(第6期役員担当)
5月15日(日)	ロ の の の の の の の の の の の の の の の の の の の
	・総会運営確認
	<ul><li>・記念シンポジウム確認</li></ul>
	<ul><li>連合ニュースNo. 163企画</li></ul>
	□令和4 (2022) 年度第12回定時総会(第6期役員担当)
	Zoomシステムを用いたオンライン方式による
	• 第 7 期役員選出
	・令和3 (2021) 年度事業報告及び決算
	・令和4 (2022) 年度計画及び予算
	□ <u>公2・公3 総会記念シンポジウム</u> (第6期役員担当)
	Zoomシステムを用いたオンライン方式による
[各局の事業計画細案	その企画(各局会等での連絡調整検討期間)]
6月 5日(日)	□第3回理事会・運営委員会(第7期役員担当)
	会場及び方法:未定
	・第7期理事会・運営委員会構成
	·第56回日本美術教育研究発表会2022計画
a H. He - L.C.	• 各局担当事業計画
6月 期日未定	□連合ニュースN o. 1 6 5 発行

・第56回日本美術教育研究発表会2022告知及び発表者募集 ・「造形・美術教育力養成講座〈第7期〉」企画広報及び参加者募集

• 総会報告

8月28日(日) □第4回理事会・運営委員会 会場及び方法:未定 「第56回日本美術教育研究発表会2022」運営準備 ・連合ニュースNo. 166企画 □論集編集委員会 会場及び方法:未定 • 発表者確定 ・ 査読担当者の検討 [公3 造形・美術教育力養成講座〈第7期〉実施(詳細は事業局の計画による)] [公2 InSEA World Forum 及び World Congress に向けた啓発活動(詳細は国際局の計画による)] □日本美術教育連合ニュースNo. 166発行 9月 期日未定 「第56回日本美術教育研究発表会2022」発表者一覧等 10月16日(日) □公1 第56回日本美術教育研究発表会2022 会場及び方法:未定 □第5回理事会・運営委員会 11月13日(日) 会場及び方法:未定 ·第56回日本美術教育研究発表会2022報告 ・造形・美術教育フォーラム2022企画 □論集編集委員会 会場及び方法:未定 · 論文審査準備 12月18日(日) □第6回理事会・運営委員会 会場及び方法:未定 ・造形・美術教育フォーラム運営 □論集編集委員会 会場及び方法:未定 • 論文査読 [公3 造形・美術教育フォーラム実施(詳細は担当の計画よる)] 「令和5 (2023)年] 1月22日(日) □第7回理事会・運営委員会 会場及び方法:未定 · 令和 5 (2023) 年度第13回定時総会開催確認 ·造形·美術教育力養成講座実施状況報告 ・造形・美術教育フォーラム実施業況報告 連合ニュースNo. 167企画 □論集編集委員会 会場及び方法:未定 • 論文再查読 3月 5日(日) □第8回理事会・運営委員会 会場:未定 · 令和5(2023)年度第13回定時総会準備 ・令和5 (2023) 年度理事会等事業運営計画審議 ・令和5(2023)年予算書審議 ・令和5(2023)年度第13回定時総会記念講演企画 ・連合ニュースNo. 167準備 □公1 日本美術教育研究論集2023No.56刊行 3月31日(木) □会計監査 令和4(2022)年度分 4月 期日未定 会場及び方法:未定 4月 9日(日) □令和5(2023)年度第1回理事会・運営委員会

会場及び方法:未定

- ・令和5(2023)年度第13回定時総会準備
- 総会議案審議
- 会計監查報告
- 総会運営
- · 総会記念講演会等企画
- 4月 期日未定
- □日本美術教育連合ニュースNo. 167発行
  - · 令和 5 (2023) 年度第13回定時総会招集通知
  - · 令和 5 (2023) 年度第13回定時総会記念講演会等予告
  - ·第56回日本美術教育研究発表会2022報告
  - ・造形・美術教育フォーラム2022報告
  - ・造形・美術教育力養成講座〈第7期〉報告

#### [総会議案公開期間(2週間以上)]

5月14日(日) □第2回理事会・運営委員会

会場及び方法:未定

□令和5(2023)年度第13回定時総会

会場及び方法:未定

□公3 令和5 (2023) 年度第13回定時総会記念講演会等

会場及び方法:未定

- □理事会は対面での開催を原則とする。
- □運営委員会は,新型コロナウイルス感染状況に配慮しつつ対面での開催を原則とし,状況に応じてオン ラインでの出席も可能とする。

# 収支予算書

令和4年度 (第13期)

自 令和4年4月 1日 至 令和5年3月31日

公益社団法人日本美術教育連合

# 収 支 予 算 書

# 令和4年4月1日から令和5年3月31日

## 公益社団法人日本美術教育連合

(単位:円)

A D	W #= #=	* * *	4-6 661	(単位:円)
科目	当年度	前年度	増減	備考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益		4 000		
基本財産運用益	1,200	1,200	0	
基本財産受取利息	1,200	1,200	0	
受取入会金	45,000	45,000	0	
受取入会金	45,000	45,000	0	注1
受取会費	1,440,000	1,440,000	0	
受取正会員会費	1,290,000	1,290,000	0	注2
受取費助会員会費	150,000	150,000	0	
事業収益	850,000	850,000	0	
受取論集広告料	150,000	150,000	0	
受取論集掲載料	550,000	550,000	0	
造形美術養成講座	150,000	150,000	0	注3
受取補助金等	51,000	51,000	0	
受取寄付金	50,000	50,000	0	
受取利息	1,000	1,000	0	
雑収益	0	0	0	
経常収益計	2,387,200	2,387,200	0	
(2) 経常費用				
事業費	1,785,000	1,778,000	7,000	
講師料費	40,000	40,000	0	
消耗品費	5,000	5,000	0	
印刷製本費	995,000	995,000	0	
通信運搬費	145,000	145,000	0	
諸謝金	60,000	60,000	0	
会議費	50,000	50,000	0	
賃借料費	280,000	273,000	7,000	注5
委託報酬	210,000	210,000	0	
管理費	432,000	494,000	△ 62,000	
会議費	165,000	165,000	0	
旅費交通費	10,000	10,000	0	
通信 <b>運搬費</b>	5,000	10,000	△ 5,000	注4
賃借料費	120,000	177,000	△ 57,000	注5
消耗品費	2,000	2,000	0	
印刷製本費	5,000	5,000	0	
支払負担金	30,000	30,000	0	
委託報酬	90,000	90,000	0	
雑費	5,000	5,000	0	
経常費用計	2,217,000	2,272,000	△ 55,000	
当期経常増減額	170,200	115,200	55,000	
当期一般正味財産增減額	170,200	115,200	55,000	
一般正味財産期首残高	3,629,760	3,514,560	115,200	
一般正味財産期末残高	3,799,960	3,629,760	170,200	
Ⅱ 正味財産期末残高	3,799,960	3,629,760	170,200	

注4 改選年でないため減額

注5 契約更新年でないため減額

注1 新入会員15名として 注2 会員数215名として 注3 啓発事業部養成講座参加費

# <u>収支予算書内</u> <u></u>表 令和4年4月1日から令和5年3月31日

#### 公益社団法人 日本美術教育連合

<b>₹</b> 1		公益目的	事業会計		11. 350	ML I A AI	内部取引	(単位:円)
科目	研究促進事業	国際事業	啓発・普及事業	小 計	共 通	法人会計	消去	合 計
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
基本財産運用益								
基本財産受取利息			600	600		600		1,200
特定資産運用益								
特定資産受取利息								
受取入会金								
受取入会金	4,500		13,500	18,000		27,000		45,000
受取会費								
受取正会員会費	129,000		387,000	516,000		774,000		1,290,00
受取養助会員会費	15,000		45,000	60,000		90,000		150,00
事業収益								
<b>論集</b> 広告料	150,000			150,000				150,00
論集掲載料	550,000			550,000				550,00
造形美術養成講座			150,000	150,000				150,00
受取補助金等				•				
受取寄付金	5,000		15,000	20,000		30,000		50,00
<b>雑収益</b>								
受取利息			500	500		500		1,00
<b>雑収益</b>								
経常収益計	853,500		611,600	1,465,100		922,100		2,387,200
(2) 経常費用								
事業費	1,226,990	0	558,010	1,785,000				1,785,00
講師料費			40,000	40,000				40,00
消耗品費	1,920		3,080	5,000				5,000
印刷製本費	857,690		137,310	995,000				995,000
通信運搬費	58,580		86,420	145,000				145,000
諸謝金	28,800		31,200	60,000				60,000
会議費			50,000	50,000				50,000
賃借料費	160,000		120,000	280,000				280,000
委託報酬	120,000		90,000	210,000				210,00
管理費						494,000		432,00
会議費						165,000		165,00
旅費交通費						10,000		10,00
通信運搬費						10,000		5,00
<b>賃借料費</b>						177,000		120,00
消耗品費						2,000		2,00
印刷製本費						5,000		5,00
支払負担金						30,000		30,00
委託報酬						90,000		90,00
維費	<u> </u>					5,000		5,00
経常費用計	1,226,990		558,010	1,785,000	0	494,000		2,217,00
当期経常増減額	△ 373,490		53,590	△ 319,900	0	428,100		170,20
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計								
(2) 経常外費用								
経常外費用計								
当期経常外増減額								
他会計振替額								·
当期一般正味財産増減額	△ 373,490	. =	53,590	△ 319,900		428,100		170,20
一般正味財産期首残高	332,969	△ 72,908	△ 2,169,220	△ 1,909,159	20,706	5,514,887		3,629,76
一般正味財産期末残高	△ 40,521	△ 72,908	△ 2,115,630	△ 2,229,059	20,706	5,942,987		3,799,96
Ⅱ 指定正味財産増減の部								
一般正味財産への振替額								
一般正味財産への振替額								
当期指定正味財産増減額								
指定正味財産期首残高								
指定正味財産期末残高								

3

## 収支予算書内訳表

令和4年4月1日から令和5年3月31日

#### 配賦基準 収益関係は

(単位:%)

科目	公益目的事業会計			共通	法人会計	内部取引	合:	計	
7f F	研究促進事業	国際事業	啓発・普及事業	小 計	大地	伍八云前	消去	ъ	FI
基本財産受取利息			50%	50%		50%		100%	
受取入会金	10%		30%	40%		60%		100%	
受取会費正会員会費	10%		30%	40%		60%		100%	
受取会費養助会員会費	10%		30%	40%		60%		100%	
事業収益論集広告料	100%			100%				100%	
事業収益論集掲載料	100%			100%				100%	
造形美術養成講座			100%	100%				100%	
受取寄付金	10%		30%	40%		60%		100%	
受取利息			50%	50%		50%		100%	
雑収益									

注 雑収益は各部門実際発生金額とし配賦なし。

#### 配賦基準 事業費関係は

科目	公益目的事業会計				共通	法人会計	内部取引	合 計
7f F	研究促進事業	国際事業	啓発・普及事業	小 計	<b>共</b> 週	佐八云町	消去	合 計
講師料			100.0%	100.0%				100.0%
消耗品費								
印刷製本費	75.7%		24.3%	100.0%				100.0%
通信運搬費	37.4%		62.6%	100.0%				100.0%
諸謝金								
会議費	74.2%		25.8%	100.0%				100.0%
旅費交通費								·
雑費	40.0%	20.0%	40.0%	100.0%				100.0%

注1. 事業費は全ての科目金額は前々事業年度の部門別実際発生額割合で按分します。

但し賃借料費と委託報酬は期中は法人部門で支払うが期末に公1、公3,法人部門に各々40%、30%、30%の割合で 配賦します。

注2. 管理費は上記の振替を除き全て法人会計部門の負担とする。